

英語科学習指導案

日 時：平成 28 年 9 月 5 日（月）5 校時

学 級：本部町立本部中学校 3 年 2 組

男子 21 名 女子 16 名 計 37 名

授業者：崎浜功美 大城かおる グウエンヒューイット

1 単元名 Program5 Sushi-Go-Around in the World (Sunshine English Course 3 開隆堂)

2 単元目標

- (1) 読み手に正しく伝わるように、まとまりのある文章を書く。【外国語表現の能力】
- (2) 日本の「食」「物」などについての文化的背景を理解する。【言語や文化についての知識・理解】

3 単元について

(1) 教材観

本単元では、「食」に関するテーマを中心にした内容である。特に日本食ブームが世界中で進行していく中、その先駆けとなった回転ずしがいつ頃、どのようなきっかけで始まったのか、また日本食の人気の秘密がどこにあるのかなど、「食」をはじめ日本文化についての理解を促進する内容である。学習指導要領の「内容の取扱い」に示されている、「外国や我が国の生活や文化についての理解を深めるとともに、言語や文化に対する関心を高め、これらを尊重する態度を育てるのに役立つこと」の点を踏まえ、様々な食文化を中心とした話題に触れながら、その文化的な背景について目を向けさせる機会としたい。

この単元では、学習指導要領「書くこと」の「(オ) 自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように、文と文のつながりなどに注意して文章を書くこと」について指導する。SVO C 構文、第 5 文型の学習と間接疑問文が導入されるため、既習表現や文法をうまく関連づけながら文構造を理解させ、日本の「食」や「物」について、相手に正しく伝わるように書いて説明することができる力を身に付けさせたい。

(2) 生徒観

昨年度 2 月に行われた県学力到達度調査の結果、平均正答率は 44. 0%であった。領域別の正答率を比較してみると、「書くこと」に落ち込みが見られる。特に、基礎的基本的な語彙の定着が弱い。さらに、文構造の理解度の差が著しい。また学習内容の定着度に差があり二極化の傾向がある。英語学習に対しての苦手意識の強い生徒は、平易な文章でも書く意欲を失ってしまいがちである。これらの課題を踏まえて、毎時間の語彙テストの実施を帯活動に位置付け、定着を図っている。今後は、まとまった英文が書けるよう語彙レベルから段階的に指導し「書く力」を付けていきたい。

表1 平成27年度到達度調査領域別分析(本校)%

聞くこと	話すこと	書くこと	読むこと
54.4	54.2	34.6	44.5

(注) 本校の年間指導計画では、Can-Do リストで各学年における「書くこと」の学習到達目標が明記されている。それを受けて段階的指導として、①英文の主語と動詞をとらえさせる(語彙テストとの関連)②時制について動詞の形を比較して指導し正しく文を書く力を定着させる③文構造に注意して正しく英文を書く力を定着させるなどを継続して行う。

(3) 指導観

これまでの書く指導においては、日本語の文を考え、それらを英文へと変換するだけの程度でとどまっておられ、読み手を意識したり、読み手により明確に伝わるように英文を作成する段階まで至っていない現状があった。さらに、トピックに対して自分の書きたいことが焦点化できない生徒も多々いるなど「書くこと」以前に課題も多い。そのため本単元では、次の点を工夫して指導を行う。

- ① 読み手を意識させ、書く目的を明確にし、より正しく相手に伝わるように、まとまりのある文章を書くことを目指す。ここでいうまとまりのある文章とは、段落の構成を考え相手に伝わるように書くことである。(④との関連)
- ② 「何をどう書かせるのか」を単元構想の柱とし、生徒の自己関連性が比較的図られやすいタスクをセクション毎に与えることにより、書く意欲を高める。
- ③ グループワークから書く言語活動を始め、単元のまとめとなる8時間目には、個人で文が書けるようにスモールステップで指導していきたい。
- ④ 段落を意識して書く。文の構成 (Opening, Body, Closing) を考え工夫して書く。

4 単元計画

単元	Program5 Sushi-Go-Around in the World		
単元目標	読み手に正しく伝わるように、まとまりのある文章を書く。 日本の「食」「物」などについての文化的背景を理解する。		
単元の 評価規準	ア. コミュニケーションへの関心・意欲・態度		
	イ. 外国語表現の能力	読み手に正しく伝わるように、まとまりのある文章を書く。	
	ウ. 外国語理解の能力		
	エ. 言語や文化についての知識・理解	①日本の「食」「物」などについての文化的背景について理解する ②文構造について理解する。	
時間	ねらい・主な学習活動	評価規準	評価方法とPTに向けたプロセス WT=Writing Test
1	<ul style="list-style-type: none"> ○ <u>本単元で身に付ける技能や学習する内容を知る</u> ・帯活動に取り組む(音読筆写) ・Warm-upとして、日本の「食」に関する写真を示し、「食」文化について知っていることやイメージすることを自由に述べ合う。(英語・日本語) ・本単元のピクチャーカードを提示し、登場人物や本文の内容を大まかにつかむ。 ・本単元で身に付ける技能や理解する内容や単元の最後に実施するライティングテストについて知る。 		<ul style="list-style-type: none"> ・本単元で身に付けたい力を確認する。 ・単元の始めに、ライティングテストの実施について、その内容と方法、評価について知らせる。
2	<ul style="list-style-type: none"> ○ <u>callを用いた文の構造を理解し、本文の内容を理解する。</u> ・帯活動に取り組む(音読筆写) ・S+V(call)+O+Cの文構造を理解する 	エ	【発表チェック】【後日ペーパーテスト】

	<ul style="list-style-type: none"> ・ call を用いて、人や物の呼び方などが言えるように練習を行う。 ・ 教科書本文を通して、オーストラリアの回転ずしについて理解し、海外での日本食ブームについて知る。また、文脈から call の文構造の理解をより深める。 		<p>ト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本時のめあての確認時に、WTとの関連を意識させる。(call の文構造の理解)
3 本 時	<p>○ <u>日本の「物」について説明する文を書く</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 帯活動に取り組む (音読筆写) ・ 「日本のお土産」について何が良いのかを考え、日本の「物」について紹介する英文をグループで書く。その際、call を活用した文を一文入れることとする。また必要に応じて辞書を活用する。 <p>例) I recommend this souvenir for Gwen' s family. This is a light coat. And it is used in a festival. We call it "Happi. Your mother likes Kimono. But kimono is hard to wear. I think that "happi" is good for Gwen' s mother.</p>	イ	<p>【後日ライティングテスト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本時のめあての確認時に、WTとの関連を意識させる。(call を使って「物」を紹介する)
4	<p>○ <u>make を用いた文の構造を理解し、本文の内容を理解する。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 帯活動に取り組む (音読筆写) ・ S+V(make)+O+C(adjective) の文構造を理解する ・ make を用いて、例えば、だれかを「幸せにする」などと言えるようにする。 <p>その際、既習単語特に形容詞にバリエーションを持たせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書本文を通して、回転ずしの始まりについて理解するとともに、紹介する表現を知る。また、文と文のつながりを理解させ、make の文構造を文脈の中で確認する。 	エ	<p>【発表チェック】【後日ペーパーテスト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ WTの実施に向けて、新しい表現を理解させる。(make の文構造の理解)
5	<p>○ <u>日本の「食」について説明する文を書く</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 帯活動に取り組む (音読筆写) ・ 「おすすめの日本食」について何が良いのかを考え、日本の「食」について紹介する英文をペアで書く。教科書本文をもとに、文と文のつながりに注意し、make を用いた表現を取り入れるようにする。その際、必要に応じて辞書を活用する。 	イ	<p>【活動の観察】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本時のめあての確認時に、WTとの関連を意識させる。(make を使って「食」を紹介する)
6	<p>○ <u>本文を通して、間接疑問文の文構造を理解する。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 帯活動に取り組む (音読筆写) ・ 間接疑問文について理解し、「いつ何がどうだったかを知っている？」などの表現ができるようにする。 ・ 教科書本文を通して世界の日本食ブームの背景について理解する。 	エ	<p>【活動の観察】【後日ペーパーテスト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ WTの実施に向けて、新しい表現を理解させる。(間接疑問文の文構造の理解)
7	<p>○ <u>日本の「物」「食」について紹介された文を読み、理解を深める。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 帯活動に取り組む (音読筆写) ・ 3時間目、5時間目に書いた英文を読んで、間接疑問文を用いて、「いつ何がどうだったかを知っているか」など相手に質問し書かれた内容の理解を深める。ジグソーによる言語活動とする。 ・ それらをもとに、書かれた英文が読み手により理解されるよう、英文を書き直したりするようにする。 	イ	<p>【活動の観察】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本時のめあての確認時に、WTとの関連を意識させる。読み手により理解しやすい表現の工夫をさせる。

8	○ ライティングテスト ・ライティングテストの実施	イ	【ライティングテストの実施】
	20分間で日本のお勧めの「食べ物」や「物」について英文で書く。既習事項や call, make を必ず取り入れて英文を書く。辞書を活用して個人で書かせる。		

(注) 「○」は各時間のねらいを、「・」は具体の学習活動を表している。本時は3時間目とする。

*8時間目の観点別評価の進め方 (ライティングテスト)

読み手に正しく伝わるように、まとまりのある文章を書く。【外国語表現の能力】

① 評価の手順

20分間で日本のお勧めの「食べ物」や「物」について英文で書く。既習事項や call, make を必ず取り入れて英文を書く。辞書を活用して個人で書かせる。

② 評価の決定

「概ね満足できる」状況 (B) 文法的に適切でない表現もあるが、文構造 (opening, body, closing) を意識してお勧めのお土産の良さや使い方が伝わるようにまとまりのある文章を書いている。

「努力を要する」状況 (C) モデル文を参考にして、お勧めのお土産の良さや使い方について簡単な構成をしながら書いているが相手に理解しにくい。手だてとしては、お土産の良さは何か、どうしてこのお土産を勧めるのかなど個別に確認する。また本単元で扱った表現を振り返らせ、どのように書けばよいのかを具体的に助言する。

5 本時の学習

(1) 本時の目標

お勧めの日本のお土産について説明する文を書く。

(2) 本時の評価規準

読み手にお土産の良さが正しく伝わるように、まとまりのある文章を書くことができる。

【外国語表現の能力】

(3) 本時の展開

過程	学習内容 (活動)	指導上の留意点	単元の評価規準と評価方法
導入	始業前	・自己評価シートを配布する	
	1 ウォームアップを行う。(5分) ○あいさつをする	・雰囲気をもたせる。	
展開	2 ALTの家族の紹介を聞き、お土産をイメージする。(5分) ○ALTの家族紹介を聞き、お勧めのお土産についてイメージしたり、具体的に考えたりする。 ○めあての確認をする。	・メモをとりながらお土産を考える。 ・学習の見通しを持たせる。	
	お勧めの日本のお土産について書こう		

	3 call を用いて日本のお土産について説明する英文を書く (35分)	
	<p style="text-align: center;">T) Now let's start writing about a nice Japanese souvenir.</p> <p>○本時の活動の説明をする。 グウェンに日本のお土産について紹介する文を書く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">【書く内容とポイント】</p> <p>① お勧めのお土産をグループで決める。</p> <p>② 伝えたい内容を整理してつながりのあるまとまった英文を5文以上書く。</p> <p>③ call を用いた英文を必ず書く。</p> <p>④ 辞書を活用する。</p> <p>⑤ つながりはよいか、文構造や綴りの誤り等はないかグループで確認する。</p> </div> <p style="text-align: center;">T) Let's share your ideas and give some advice.</p> <p>○ペア交流：お互いの書いたものを助け合いながら協力して伝え合う。またアドバイスしあう。</p> <p>○全体交流：気づきを共有する。</p>	<p>・モデル文を提示する。</p> <p style="text-align: center;">I recommend this omiyage for Gwen's family.</p> <p style="text-align: center;">This is a light coat. And it is used in a festival. We call it "Happi".</p> <p style="text-align: center;">I think that "happi" is good for Gwen's family.</p> <p>・伝えたいことを整理して書かせる。</p>
終末	4 本時のまとめと振り返りをする。(5分)	
	<p>○本時の振り返りをする。</p> <p>○あいさつをする。</p>	<p>・今日の授業について評価する</p>

イ【活動の観察】

(4) 板書計画

Day : Monday Date : September 5th, 2016 Weather : Sunny

Today's Goal : お勧めの日本土産について書こう！

Things to do!

Japanese souvenirs

Model Sentences !

